

小児とペリオの立場から歯科の未来を考える

～小児から成人への手紙～

う蝕洪水時代から治療・予防がすすみ、現在ではカリエスフリーを達成できる時代となりました。また一方では、成人の80%が歯周病へ罹患し、その対策として、再生治療やインプラント治療等の発症後の対策に追われているのが現状です。生涯を通して口腔が健康であるために、我々が提供する歯科医療は何を考え、行っていく必要があるかを、講師の先生方と考えてみたいと思います。

Part 1 10:10～



佐野正之先生
あすなろ小児歯科医院
小児歯科学会指導医

「小児う蝕はコントロールできる時代に」

小児歯科＝ムシ歯の時代は、終わりを迎えようとしているのです。
どのようにして子供たちの口の中から齲蝕が減少していったかについて、あすなろ小児歯科医院における取り組みと、今後小児歯科界におけるnew Standardとなる「早期管理型医療」に関して、お話したいと思います。



岡崎好秀先生
国立モンゴル医科大学
小児歯科学会指導医

「小児歯科医として伝えておきたいこと」

小児歯科は、“小児期を診る歯科”と考えるのならば、小児歯科の未来は無い。
そこで小児歯科は、“小児期から診る歯科”と考えている。(中略)とすることで、小児歯科臨床にまつわる深いイイ話、明日から役立つ話をお伝えしようと思う。

Part 2 ～12:20



村上恵子RDH
村上歯科医院 東京都
歯周病学会認定歯科衛生士
臨床歯周病学会認定歯科衛生士

「歯科衛生士が担う歯周治療の可能性」

日本人の80%が歯周病に罹患しているといわれ、そのうちの8割が歯科衛生士による歯周基本治療で改善される可能性があります。特に、小児の歯肉炎を早期に発見し、歯周炎へと進行しないように予防していくという役割も担っていると思います。



熊谷靖司先生
熊谷歯科医院 東京都
歯周病学会認定医

「成人における歯周病・う蝕のその後」

18才以降の患者さんが受診する事が多い成人歯科では、う蝕や歯周病の治療を主に行っています。小児期に確立されたカリエスフリーの口腔内が年齢と共にどのように変化していくのか？また、歯肉炎から進行した歯周炎はどのように変化していくのか？小児から巣立った成人の現状について考えたいと思います。

Part 3 13:30～



山本龍生先生
神奈川歯科大学
社会歯科学講座 准教授
歯周病学会指導医

「認知症・介護予防にも影響する？」 ～小児期の歯の健康と歯周病～

歯が少ないと認知症や要介護のリスクが高まることが明らかになってきた。したがって健康寿命延伸のために、歯を失う2大原因のうち、う蝕は特に小児期からの予防、そして歯周病の予防がますます重要となっている。

Part 4 ～16:00

パネルディスカッション

症例をとおして、生涯を通して口腔の健康を維持するためには何か必要か？講師の先生にパネラーとなって頂き、皆さんと今後の歯科医療について考えたいと思います。

主催 あすなろ小児歯科医院 (富山県富山市)
熊谷歯科医院 (東京都中野区鷺宮)

日時 2015年7月26日 (日)
10:00～16:00 (9:30受付開始)

場所 一橋講堂 (東京都千代田区)

申し込み方法

- ホームページから (出来るだけHPからお願いします)

<http://www.smile888.net/shouni>

- FAXでの申し込みは裏面へ



- 振込をもって受付完了となります
- 参加費の返金のご遠慮下さい
- 振り込み確認後、受講票をお送りします
- 振り込み控えを領収書とさせていただきます

問い合わせ先・事務局 (株)ストランザ 東京都港区芝公園1-3-5 TEL03-6403-4880

FAXからのお申し込み

下記のフォームに記入頂き

03-6403-4881 まで送って下さい！

連絡先	名 前			フリガナ	
	住所	自宅・勤務先	〒	-	()
	T e l				Fax
	email				所属歯科医院名
○をして下さい		歯科医師・歯科衛生士・医療系学生・その他 (市民等)			